

信濃川水系北信圏域河川整備計画(変更原案)に対して学識経験者からいただいた意見及び県の考え方について

No.	変更原案該当箇所				学識経験者	ご意見	県の考え方
	章	節	項	頁			
1	第1章 対象圏域と河川 の現状	第1節 対象圏域の概要		P1	平林教授	流域面積11,900km ² の単位をkm ² にする。	記載を修正しました。
2	第1章 対象圏域と河川 の現状	第1節 対象圏域の概要		P5	平林教授	1998年冬季オリンピックを年号表記に統一し、平成10年冬季オリンピックとする。	記載を修正しました。
3	第1章 対象圏域と河川 の現状	第1節 対象圏域の概要		P6	本村学芸員	イヌワシ、クマタカ、…希少種の生息も多く →「イヌワシ」削除 ※イヌワシはかなり個体数が少ない …を望む高さ30mの十三崖には… →…を望む高さ約30mの十三崖には… ※崖高さに多少高低差あり 平成18年度に「十三崖チョウゲンボウ繁殖地環境整備事業」として、崖下の樹木の枝下ろし、崖面の灌木、下草、ツタなどの刈り払いを行い、… →平成30年度に「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地保全整備事業」として、崖面の灌木、下草、ツタなどの刈り払い等を行い、… ※事業内容の更新 事業名変更、「崖下の樹木の枝下ろし」削除	記載を修正しました。
4	第1章 対象圏域と河川 の現状	第2節 圏域内の河川 の現状と課題	第1項 治水に関する現状と課題	P10	豊田准教授	「千曲川の各水位観測所で計画高水位を超過し」と書くと、すべての観測所で超過したようにも読めるため「千曲川の複数の水位観測所で計画高水位を超過し」としてはどうか。	記載を修正しました。
4	第1章 対象圏域と河川 の現状	第2節 圏域内の河川 の現状と課題	第1項 治水に関する現状と課題	P13	相澤代表理事組合長	河川整備にあたっては千曲川(国)と連携し一体的に進めて頂きたい。	河川整備にあたっては、千曲川本川(国)と調整・連携しながら進めてまいります。
5	第1章 対象圏域と河川 の現状	第2節 圏域内の河川 の現状と課題	第2項 利水に関する現状と課題	P18	平林教授	PH5をpH5にする。	記載を修正しました。

信濃川水系北信圏域河川整備計画(変更原案)に対して学識経験者からいただいた意見及び県の考え方について

No.	変更原案該当箇所				学識経験者	ご意見	県の考え方
	章	節	項	頁			
6	第1章 対象圏域と河川 の現状	第2節 圏域内の河川 の現状と課題	第3項 河川環境に関する 現状と課題	P18	相澤代表理事組合長	魚類の生息には多様な流れを形成する石の存置が必要である。また、皿川出口(皿川樋門)はコンクリート張りで魚が遡上できない。	設計実施時の検討課題とさせていただきます。
7	第1章 対象圏域と河川 の現状	第2節 圏域内の河川 の現状と課題	第3項 河川環境に関する 現状と課題	P18	松岡名誉教授	皿川樋門やJRボックス部について、魚が遡上できるように水深を確保する構造にするなど、施工上の工夫で解決できないか。	設計実施時の検討課題とさせていただきます。
8	第1章 対象圏域と河川 の現状	第2節 圏域内の河川 の現状と課題	第3項 河川環境に関する 現状と課題	P18	本村学芸員	現地状況から、施工上、問題となりそうな植生(貴重種)等はないと思われる。植生が繁茂しすぎて鳥類の生息には不適と思われる。本日キセキレイ等2種類の鳥類が確認されたが、貴重種というわけではなく、工事をやる上で問題はない。	今後必要に応じてご相談させていただきます。
9	第1章 対象圏域と河川 の現状	第2節 圏域内の河川 の現状と課題	第3項 河川環境に関する 現状と課題	P18	本村学芸員	河床の石等は鳥類のえさ場となりうるため、存置するのが望ましい。	設計実施時の検討課題とさせていただきます。
10	第1章 対象圏域と河川 の現状	第2節 圏域内の河川 の現状と課題	第3項 河川環境に関する 現状と課題	P19	平林教授	現在も、堤防から河床が深く近づきにくい状況だが、さらに堤防嵩上げにより川と人とのふれ合いが希薄になる。現状の利用状況を把握し、必要に応じて設計にフィードバックするとよい。	現状の利用状況を把握するとともに実施設計に反映してまいります。
11	第2章 河川整備計画 の目標に関する 事項	第2節 計画対象期間		P24	平林教授	計画対象期間は“概ね30年間とする”とあるが、今後起こりうる大規模出水を見据えて、“今後、計画の見直しをする”を追記できないか。	本文のP21に記載のとおり、整備計画策定後に状況の変化、新たな知見、技術が得られた場合は、適宜その内容について点検を行い、適切に変更を行います。
12	第2章 河川整備計画 の目標に関する 事項	第3節 洪水による災害の 発生の防止又は軽 減に関する目標		P25	金崎理事長	皿川の堤防整備により内水被害防止とあるが、常盤地区も度々内水被害が発生している。皿川樋門は撤去する方向なのか。	内水被害の軽減を図るため、まずは皿川堤防の嵩上げを進め、最終的には皿川樋門を撤去する計画です。千曲川本川水位の上昇による常盤地区の内水被害が軽減されるよう、国と調整・連携して千曲川本川の整備を進めてまいります。

信濃川水系北信圏域河川整備計画(変更原案)に対して学識経験者からいただいた意見及び県の考え方について

No.	変更原案該当箇所				学識経験者	ご意見	県の考え方
	章	節	項	頁			
13	第2章 河川整備計画の目標に関する事項	第3節 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する目標		P25	平林教授	<p>皿川の整備延長600mがなぜ必要なのか、補足説明を加えるとよい。</p>	<p>・整備の必要性については設計を進め、具体的な方針が決まった段階で地元等へ説明させていただきます。</p> <p>・附図に追記します。(延長約600mと表示する。)</p>
14	第2章 河川整備計画の目標に関する事項	第3節 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する目標		P25	平林教授	<p>堤防補強(法尻ブロック等)の役割について、地域住民へ説明が必要である。</p>	<p>住民説明会等を通じ、堤防補強の目的等について説明してまいります。</p>
15	第2章 河川整備計画の目標に関する事項	第3節 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する目標		P25	松岡名誉教授	<p>皿川の具体的な整備メニューが決まった段階で地域住民への情報共有が大切である。</p>	<p>設計を進め、具体的な整備メニューが決まった段階で地域住民へ説明いたします。</p>
16	第2章 河川整備計画の目標に関する事項	第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	第2項 流水の正常な機能の維持に関する目標	P26	平林教授	<p>表-4 灰野川の流水の正常な機能を維持するために必要な水量の単位(m³/s)を(m³/s)にする。</p>	<p>記載を修正しました。</p>
17	第2章 河川整備計画の目標に関する事項	第5節 河川環境の整備と保全に関する目標		P27		<p>河川環境に関する記述で、保全・復元と保全・再生の文言が混在している。統一してはいかかが。</p>	<p>「保全・再生」に統一表記します。</p>
18	第3章 河川の整備の実施に関する事項	第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川の工事施行により設置される河川管理施設の機能の概	第1項 河川工事の目的	P28	平林教授		

信濃川水系北信圏域河川整備計画(変更原案)に対して学識経験者からいただいた意見及び県の考え方について

No.	変更原案該当箇所				学識経験者	ご意見	県の考え方
	章	節	項	頁			
19	第3章 河川の整備の 実施に関する 事項	第1節 河川工事の目的、 種類及び施行の場 所並びに当該河川 の工事施行により 設置される河川管 理施設の機能の概 要	第2項 河川工事の種類及 び施行の場所並び に当該河川の工事 施行により設置され る河川管理施設の 機能の概要	P29	平林教授	皿川事業区間(航空写真)に国道と千曲川本川の 表記を追記する。	追記しました。
20	第4章 河川情報の提 供、地域や関係 機関との連携 等に関する事 項	第2節 地域や関係機関と の連携等に関する 事項	第4項 関係機関及び流域 住民との連携	P36	平林教授	「コクチバス」追記 ※外来生物の具体例追加	追記しました。
21	第4章 河川情報の提 供、地域や関係 機関との連携 等に関する事 項	第2節 地域や関係機関と の連携等に関する 事項	第5項 まちづくりと連携した 河川整備に関する 事項 第6項 水防災意識社会再 構築ビジョンの策定 第7項 「流域治水」の取り 組み	P36,37	豊田准教授	整備計画本文の校正をかけることは可能か(例え ば、5、6、7項等の重要事項は前に入れることは できないか) 令和元年東日本台風のことは本川を含めて記載 しないのか。	今回は現整備計画を変更するものであり、 新たな項目は追記としております。
22				附図-12	丑山学芸員	整備箇所は有尾遺跡の端にあたるが、現時点で は河川改修による文化財への影響はないと思わ れる。施工にあたり神社近辺に影響がある場合 には相談して頂きたい。	設計を進めるにあたり工事の詳細が分 かった段階で改めてご相談させていただき ます。
23				附図-14	平林教授	堤防嵩上げ(90cm)に加え、貯留容量を確保する ため、川幅が広いところもあるので、河川敷掘削 も実施してはどうか。	設計実施時の検討課題とさせていただきます。 また、河川維持管理の中で、堆積土 砂の除去を行ってまいります。
24				—	平林教授	今回の河川整備計画とは直接関係しないが、飯 山地域において、皿川と似たような地形特性や河 道条件を有する河川では同様な被害が発生する おそれがある。総点検を実施して事前予防を図る ことが望ましい。	北信管内でも河川維持管理等で点検を進 めており、河川管理上支障をきたす場合 は速やかに修繕等必要な対策を行って います。引き続き適正な維持管理に努めてま いります。